

平成22年度 行財政再生シート

NO. 17

項目名	市農業振興祭	事業名	市農業振興祭補助事業
担当部	環境経済部	担当課等	農業水産課

この事業に係る費用を市民一人あたりに換算すると **27** 円 です。

※事業費（平成22年度予算額）を人口5万5千人で除した額

1. 事業の目的・概要等

(1) 事業の目的	「常滑市農業まつり」は、常滑市とJAあいち知多が一体となって、地域農業の活性化と重要性を市民に理解していただくために開催する。また、合わせて地域住民とのふれあいの場所を提供する。				
(2) 事業の概要	今年で32回目を迎える伝統ある行事であり、この時期に「農業」のみをテーマとして行われるイベントは周辺市町にはなく特徴的である。地元農産物の品評会や消費拡大・地産地消に向けた即売会、花の苗や苗木の配布など農業関係主体の運営に加え、異業種交流の意味から、市内を中心とした小売店の出店や市民サークル等の発表の場も提供しており、市民の間にも定着してきている。				
(3) 実施・運営方法		1. 市が直接実施・運営			
		2. 外部へ委託または指定管理	委託先等		
	○	3. 団体等への補助金により実施	実施主体	市、あいち知多農業協同組合共催	
		4. その他（ ）			
(4) 実施期間など	開始年度	昭和59年度	終了予定年度	継続	-
(5) 根拠法令など	農水産業振興事業費補助金交付要綱				
(6) 近隣市町・類似団体等の状況	常滑市以外の知多4市5町は「産業まつり」として、商工業を中心にイベントを開催しており、農業関連コーナーで地元農産物の品評会や即売会、花苗や苗木の無料配布などを実施している。				

2. 事業費の推移

(千円)

-		H19決算額	H20決算額	H21決算額	H22予算額	
支出	事業費	1,000	1,000	900	810	
	正規	人数(人)	0.1	0.1	0.1	0.1
		人件費	800	780	690	690
	再任	人数(人)				
		人件費	0	0	0	0
	臨時	人数(人)				
人件費		0	0	0	0	
支出計		1,800	1,780	1,590	1,500	
財源	国・県支出金					
	地方債					
	その他()					
	一般財源	1,800	1,780	1,590	1,500	
市民1人あたり(円)★		33	32	29	27	
投資事業費	全体事業費		～H22末見込	H23以降	進捗率	
	うち一般財源		うち一般財源	うち一般財源	(H22末見込)	

※人件費の算出単価 ・正規職員 : H19/8,000千円、H20/7,800千円、H21/6,900千円、H22/6,900千円
 ・再任用職員 : H19/2,900千円、H20/2,800千円、H21/2,600千円、H22/2,400千円
 ・臨時職員 : H19～H22/1,000千円

★支出計を人口55,000人で除した額

3. 事業実績・計画と成果等

	H19実績	H20実績	H21実績	H22計画
事業実績	第29回常滑市農業まつり 実施日：H19.11.11 参加者数：20,000人 内容 ①花の苗、苗木、米粉パン 無料配布 ②地元農産物の品評会 ③地元野菜の即売 ④JA酪農部会の牛乳の配 布 ⑤肉牛・養豚部会の焼き肉 の試食 ⑥市内小中学校作品展 ⑦市民有志の舞台発表 ⑧市内小売業者の販売 ⑨アルミ缶回収	第30回常滑市農業まつり 実施日：H20.11.9 参加者数：22,000人 （競艇場外発売と同時開 催） 内容 ①花の苗、苗木の無料配布 ②地元農産物の品評会 ③地元野菜の即売 ④JA酪農部会の牛乳の配 布 ⑤肉牛・養豚部会の焼き肉 の試食 ⑥市内小中学校作品展 ⑦市民有志の舞台発表 ⑧市内小売業者の販売 ⑨ペットボトルキャップの 回収	第31回常滑市農業まつり 実施日：H21.11.22 参加者数：20,000人 内容 ①花の苗、苗木、米粉パン の無料配布 ②地元農産物の品評会 ③地元野菜の即売 ④JA酪農部会の牛乳の配 布 ⑤肉牛・養豚部会の焼き肉 の試食 ⑥市内小中学校作品展 ⑦市民有志の舞台発表 ⑧市内小売業者の販売 ⑨ごみ減量運動と難民への ワクチン提供	第32回常滑市農業まつり 実施日：H22.11.3 参加者数：20,000人 内容 ①花の苗、苗木、米粉パン の無料配布 ②地元農産物の品評会 ③地元野菜の即売 ④JA酪農部会の牛乳の配 布 ⑤肉牛・養豚部会の焼き肉 の試食 ⑥市内小中学校作品展 ⑦市民有志の舞台発表 ⑧市内小売業者の販売 ⑨地産地消のPR
成果・効果	<p>常滑市農業まつりは、毎年多くの市民の方が楽しみに来場されて賑わっており、農業とふれあうことができる一大イベントに定着している。生産者自身が栽培した地元農産物の即売会は、安心・安全でお値打ちなこともあり、毎年大変な盛況をみせている。また品評会への出展は多くの農業者のはげみになっている。さらに、まつりで配布する花の苗は、市職員と市民有志のボランティアで栽培したものであり、まちの景観、環境意識の向上に寄与している。</p>			

4. 事業の必要性

3	チェック数	法定等の実施義務がある	緊急度が高い	○ 類似(代替)事業が存在しない
		実施目的が未達成である	政策・施策の中で優先度が高い	○ 受益者が多く市民ニーズが高い
		市以外では実施不可能である	○ 継続しなければ効果が表れない	市長の公約に掲げている
必要性	廃止・凍結・休止・先送りした場合の影響	廃止した場合、農業まつりは、唯一多くの市民に農業を紹介する場であるため、常滑市の農畜産業を紹介する機会がなくなる。安心・安全、地産地消を推進する常滑市の農政を市民に理解していただく機会がなくなる。		
	想定される代替事業	なし	-	
		市既存事業の活用	市（担当課）	
			既存の事業	
		民間事業の活用	想定事業主体	
			代替事業	

5. 事業の自己評価(今後の方向性・課題など)

<p>この事業は多くの市民が毎年楽しみにしており、農業を主体としたまつりは、他の近隣の市町にはみられない独自の行事であり、市民と農業者の唯一の交流の場となっている。農業従事者の高齢化や後継者の確保など農業のかかえる問題はいろいろあるが、「元気」のある農業をめざし、市民の生活に欠くことのできない「食」の原点である農業への理解と重要性を再認識していただくための有意義な事業と考える。</p>
--